

R7 東海市立名和中学校 学校評価シート		○教育目標	・「自ら学び、きびしく自己を律する生徒」「礼儀正しく、互いに協力し合う生徒」「心身ともにたくましく、ねばり強く取り組む生徒」の育成をめざす。
住所	東海市名和町中首羅 1-1	○特色ある教育	・合唱活動等の集団活動を通して、愛校心を養うとともに、自他を大切にすることを育む。
電話番号	052-601-2240	○地域の特徴	・コミュニティ・公民館を中心に、中学生ボランティアの活躍の場が多い。
生徒数	444名		
校長名	岸本 良彦		
	14学級（内特支2）		

中期目標	今年度の目標	評価方法 (アンケート項目等)	結果の分析 ()内は、「よくあてはまる」、「ややあてはまる」の合計、○%→○%は前年度からの変化	課題と対応策	学校関係者評価 令和8年2月6日 実施	来年度の改善策 (誰が何をどうする)
自ら学び、きびしく自己を律する生徒	ICT機器を積極的かつ効果的に活用し、学ぶ喜びを実感できる授業づくりを行う。	生7 楽しい授業が多い。 生8 わかりやすい授業が多い。 保13 学校は、わかりやすい授業をしている。 教3 生徒たちは、授業の内容を理解している。 教7 わかる授業を実践している。 教8 楽しい授業を実践している。	生7 (70.7→67.4)、生8 (81.3→77.6)から、授業を「わかりやすい」「楽しい」と感じている生徒は減っている。また、教3(79.3→64.3)から、生徒が授業内容を理解できていないと感じている教員が多い。	生徒の理解度を把握しながら、「わかる」を意識した授業実践をしていく。それを継続することで、生徒が「楽しい」という気持ちをもてるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・教師がICTを使うメリットとデメリットを考えて行うことが大切である。 ・ICTを使うために教職員が「大変だ」と感じることもあると思うが、その利点を生かしていってほしい。 ・家庭学習の習慣が身に付いていない生徒が3人に1人程度いるが、学校からの宿題の量は少なくないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用するメリットの一つとして、意見を迅速に集約し提示できる点が挙げられる。一方で、突然使用できなくなる場合があることはデメリットである。今後もICT支援員と連携しながら、授業の目標を達成できるよう効果的なICT活用を進めていきたい。 ・宿題については、教科ごとに課題を出しているが、学年や学校として共通の宿題は設けていない。与えられた課題をこなすのではなく、自分に必要な力を考えて実行できる生徒を育てていきたい。また、学習習慣を確立することの重要性について、さまざまな場面で継続して指導していきたい。
	学習基盤（学習規律と学習習慣）を形成する。	生9 授業中、先生や友達の話最後までしっかり聞いている。 生19 家庭学習の習慣が身に付いている。 生22 名和中規律を守っている。 教20 名和学習規律を徹底するよう指導している。	生徒のアンケート結果は、どれも昨年度から大きく変化していなかった。教20(100→92.8)から、教師の学習規律への意識を高めていく必要があることが分かる。	家庭学習の習慣については、昨年度と同様におよそ3人に1人が「身に付いていない」と回答している。今後も保護者と連携をとり、家庭学習の習慣づけをしていきたい。		
	ICT機器を積極的かつ効果的に活用し、教師の授業力向上を目指し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。	生11 授業では、先生の説明だけでなく、発言・発表したり活動したりする時間がある。 生12 授業では、問題や課題に積極的に取り組んでいる。 生13 授業では、自分の考えを工夫して発表している。 生14 授業では、友達と意見を交換し、互いに高めようとしている。 教11 生徒を適切に評価している。 教18 授業力向上のために、研修・講習に積極的に取り組んでいる。	生徒のアンケート結果は4項目のうち3項目が減少したが、減少の程度は小さかった。教師11(100→96.4)、教師18(79.3→67.9)ともに減少した。特に教18の結果から、教師の研修や講習への取組に課題があることが分かった。	研修・講習に積極的に取り組むことは授業力向上のために不可欠である。働き方改革を進めながら、教員が研修や講習に積極的に参加する機会を設け、授業力向上の意識を高めていきたい。		
礼儀正しく、互いに協力し合う生徒	充実した学校生活を送り、自己や仲間を大切にすることを育む。	生1 名和中学校が好きである。 生3 毎日の学校生活が楽しい。 生6 学校では、元気よく明るくあいさつしている。 教5 生徒たちのよいところを認め、褒めている。 保11 名和中学校の先生は、子どもを大切にしている。	5項目すべてが昨年度よりよい結果だった。教師が生徒を認め、生徒がそれを受け止めており、多くの保護者にそれが伝わっていると考えられる。	今後も生徒同士の人間関係だけでなく、教師と生徒のよい関係を継続できるようにしていく。そのためにさまざまな場面で生徒のよい面を認め、それを発信していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で名和中生の登下校の様子を見るが、数年前に比べて落ち着いていると感じる。 ・福祉に関する教育は重要だと考える。ぜひ、取り入れるとよい。 ・10年以上前から、名和中学校の合唱を見て、いつも「すばらしい」と感じる。合唱に関するアンケートの結果は納得できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉に関する学習は、1年生が総合的な学習の時間で取り組んでいる。今年度も講師の方を招き、複数回の学習会を実施した。今後もこのような学びの機会を大切にしていきたい。 ・本校の合唱は長く受け継がれてきた伝統である。合唱を通して多くの生徒が成就感を得るとともに、仲間とのつながりを深めることができている。今後も教職員、生徒ともに「名和中の合唱は伝統である」という意識をもち、その伝統をしっかり受け継いでいきたい。
	郷土愛を育み、地域に貢献しようとする心を育む。	生20 地域の行事に積極的に参加している。 保7 あなたの子どもは、元気よくあいさつできる。 地2 名和中学校の子どもたちは元気よくあいさつできる。 地5 学校は、地域の活動や行事によく協力している。 教14 校区の地域行事等に出向き、実際に参加したり生徒の応援に出かけたりしている。	地2のみ微減であったが、それ以外は増加した。特に地5(86.5→95.0)、教14(44.8→60.8)は大きく増加した。生徒の積極的なボランティアへの参加が評価されたと思われる。	今後も生徒にボランティア活動に積極的に取り組むよう働きかける。また、これまで同様、コミュニティ活動などを通して、学校と地域の方とのつながりを大切にいく。		
	合唱活動等の集団活動において、支え合い高め合う仲間づくりを推進する。	生2 名和中学校の合唱は自慢できる。 生15 学校・学年行事では、活躍する場がある。 教12 合唱活動を中心とした学校・学年行事について、趣旨を理解し実践している。 教13 合唱活動を中心とした学校・学年行事の成果は上がっている。 保8 合唱活動等の学校・学年行事を通して、生徒の成長が感じられる。 地7 名和中学校は、合唱活動等の学校・学年行事の充実を目指している。	生徒の結果はともに減少したが、変化は非常に小さい。合唱についての問いについて、教師、保護者、地域の方ともに昨年度に続きよい結果であった。本校が、さまざまな場面で合唱を大切にしている成果であるといえる。	本校にとって合唱は、互いに協力し合う生徒を育てるために重要な役割を果たしている。また、多くの生徒が、名和中学校の合唱を「自慢できる」と感じている。今後も合唱を通して、仲間とやり遂げる成就感や生徒同士の繋がりを味わわせ、自己や仲間を大切にすることを育てていきたい。		
心身ともにたくましく、ねばり強く取り組む生徒	命を尊び、健康で安全な生活を送るための教育を推進する。	生16 困ったとき、相談したい先生がいる。 生17 いじめなどに対して、先生はすぐに対応してくれる。 保3 名和中学校は生徒の安全・安心に配慮している。 教6 教育相談を充実させ、いじめ等の生徒の悩みに適切に対応している。	保3(72.2→77.0)をはじめ、昨年度からすべての項目で増加したが、生16の項目は依然として50%程度であり、教師(92.9)や保護者(77.0)の認識と異なっている。	生徒の異変に気付いたら、多くの教師で情報を共有し、迅速に対応する。生徒の悩みや不安に耳を傾け、解決を目指し対応することで、学校が安全で安心な所であることを感じさせたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習は、現在も行っているか。 ・サポートルームを設置して不登校傾向の生徒に対応しているが、地域が協力できることはあるか。 ・行事などを通して、仲間と協力して何かを成し遂げることは大切なことである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場体験学習はコロナ禍以後、行っていないが、1年生が、社会で働く人を講師として招いて、「社会人と語る会」を行っている。社会を知る貴重な機会であるため、今後も継続していきたい。 ・サポートルームにボランティアの方が来ていただいている。子どもたちにとって学校外の大人と接するよい機会となっている。今後もボランティアの方と連携して子どもたちにより影響を与えたい。
	キャリア教育を通して、生きる力の育成を図る。	生21 自分の将来について、考えている。 地6 学校行事で地域が協力できることがもっとある。 保10 名和中学校から協力依頼があれば、できるだけ協力したい。 教21 生徒の将来を展望し、体験的な活動を工夫している。	保10(61.6→67.0)は増加、教21(96.6→71.5)は大きく減少した。年間を通して、体験的な活動が少ないことが要因だと考えられる。	地域の方や保護者に協力していただける行事を検討していく。また、体験的な活動を可能な限り取り入れていくことが必要である。		
	学校・学年行事を通して、仲間とともに最後までやり遂げる力を育成する。	生5 仲間と協力して、積極的に学校・学年行事に取り組んでいる。 教22 学校・学年行事で、生徒が自己の成長を感じ、自己肯定感を得られるように指導している。	両項目ともに95%程度で、昨年度から大きな変化はなく、よい結果だった。名和中祭などの学校行事に、生徒も教師も一生懸命取り組むことができていることが要因だと考える。	学級内の繋がりがだけでなく、学年内、学年を超えた繋がりを今後も重視し、生徒も教師も一生懸命になれる行事を計画・実行することで、生徒が自己肯定感を高められるようにしていく。		
地域の中で育つ生徒	保護者・地域への迅速かつ丁寧な情報発信と情報収集に努める。	生18 学校だよりや学年だよりなどの学校からの配付物を、きちんと家に渡している。 教15 生徒たちの健全育成のため、教職員間や地域との情報交換を行っている。 教17 学校だより、ホームページ、学校ブログ等を通じて、学校の様子を知らせている。 保5 名和中学校からの通信に、保護者の知りたい情報が盛り込まれている。 保6 名和中学校は、家庭の願いや声を聞いてくれる。 地4 学校からのお知らせ(たより・ホームページ等)により、学校の様子がわかる。	教15(75.8→96.5)が大きく増加した。教職員間の風通しがよいことやSC、SSWとの連携を図ることができていることなどが結果に表れていると思われる。また、地4(59.4→82.5)も大きく増加した。HPや学校だよりにより行事の様子や職員の思いや願いを載せることの重要性を感じる。	多くの項目がR6より増加した。ただし、保6から、「名和中学校は家庭の願いは声を聞いてくれる」と感じていない保護者が20%程度いる。今後も学校の教育方針を保護者に理解していただくよう努力するとともに、保護者の思いや願いに寄り添った対応をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒がボランティアに積極的に参加してくれる。気持ちのよい挨拶をして、活発に活動してくれて大変助かっている。 ・部活動の地域展開が始まり、今は過渡期である。働き方改革が推進され、先生方も大変ではあると思うが、子ども達ひとりひとりが活躍できる場を今後も共につくっていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方からの中学生への期待は大きいと感じる。令和8年度は、緑陽地区の11月の防災訓練に中学生のボランティアが参加する予定である。中学生にとっては学びや経験が得られるよい機会になるはずである。中学生の活気を今後も地域の力にしていけるよう働きかけていく。 ・部活動の地域展開が始まり、生徒が地域の方と関わる機会が増えていくことが予想される。今後も部活動に限らず、学校と地域のそれぞれの関係者が顔を合わせて話す貴重な機会を大切に、地域と学校が連携して生徒の成長を支えていきたい。
	地域行事等への参加や学校支援者(地域講師)を教育活動に導入する等、地域との相互交流の場を模索する。	生20 地域の行事に積極的に参加している。 教14 校区の地域行事に出向き、実際に参加したり生徒の応援に出かけたりしている。 保2 あなたの子どもは、校区の行事に積極的に参加している。 地5 学校は、地域の活動や行事によく協力している。	すべての項目が増加した。中でも地5(95%)は高い数値であった。生徒のボランティア活動への積極的な参加など、学校が地域の活動を大切にしている姿勢が、保護者や地域の方に伝わっていると感じる。	地域のコミュニティや学校を支えてくれている団体との連携を今後も大切にしていく。また、より多くの生徒が地域の行事やボランティア等に参加するよう呼びかけていく。		
	校区の2小学校との連携・交流を行い、小中9年間を見通した教育活動を実現する。	教19 小学校時からの生徒の実態をつかみ、個に応じた指導を心がけている。	教(86.2→78.6)が減少した。学年が上がるにつれて小学校との連携が薄れている可能性がある。	引き続き小学校との連携を大切にする。また、それぞれの生徒の個性、特性を理解して個にあった指導を今後も意識していく。		